

# コロナ禍における“対策”

## ■インフルエンザ予防接種

10月1日からインフルエンザ予防接種が始まりました。市は、今年度に限り、市民のインフルエンザワクチン接種に3、500円/回を助成します。多くの方に接種してもらいたいと思います。

いま、インフルエンザの流行期を迎えようとしています。海外ではすでにインフルエンザと新型コロナウイルスの重複感染が確認され、重篤化も心配されています。最大の懸念は、インフルエンザと新型コロナウイルスが混在することによる医療現場の混乱です。発熱等により受診した人がどちらなのか見分けはつきません。ならば、予防ができるインフルエンザを抑え込もうとする方が合理的なわけです。

## ■ウィズコロナの中で

首都圏を中心に全国の感染者数は第一波のときよりも高く推移しています。にもかかわらず、重篤者あるいは死者数は低く抑え込まれています。新型コロナウイルス対策と治療方法が着実に進歩しているのだと思います。

いま問われているのは、メリハリをつけながらの感染予防対策と経済対策の両立です。

政府は、各種GOTOキャンペーンを始めました。市も県や他の市町村と同様に、感染拡大防止を図りながら経済対策を行っています。

## ■これまでの取り組み

初めの頃は未知のウイルスということもあり、徹底した感染予防対策に終始しました。マスクや消毒液等が店頭から消えたために市民の間に不安が広がりました。市は、ピーク等により精製された消毒液を一般配布するなどして、不安の解消に努めました。

同時に、緊急経済支援も行いました。コロナ禍直後から苦境に陥った飲食・宿泊業を救済するための「飲食店等緊急支援給付事業」と「おうちdeレストラン事業」を行いました。

次に、少し遅らせて、飲食・宿泊業以外の業種への「事業継続応援給付事業」を実施しています。少し遅らせた理由は、飲食・宿泊以外の方々には申し訳なく思いましたが、より緊急性の高いところに早急に支援をするためには絞り込みが必要だと考えたからです。

また、コロナ禍により困窮する学生に対して「学生生活緊急支援給付金」にて継続した支援を開始しています。

緊急事態宣言解除後は、感染予防対策を徹底しながら県のプレミアム飲食・宿泊事業に合わせた市独自の「県民誘客支援事業」などを行っています。

また、アフターコロナを視野に入れ、超神ネイガーとタッグを組んだ「元氣りチャージプロジェクト」や、フリーアナウ

ンサー相場詩織さんのYouTube番組とコラボした「にかほdeしおさんぽ」のシリーズ化など、市のPR活動も開始しています。

また、フジテレビの朝の番組「めぐましテレビ」のじゃんけんコーナーに「秋田県にかほ市産の特別栽培米」を提供することで10月5日から5日間にわたりにかほ市を全国にPRしました。

その他教育委員会でも行事の見直しとともに、学習環境の改善のために、全児童生徒へのタブレット導入や全教室への冷房設備の導入を図っています。

## ■これからの動き

前述のインフルエンザワクチン助成のほか、消費活動が落ち込む冬の経済対策にも取り組めます。消費の呼び水として市民一人あたり3、000円の商品券を配布します。また、厳しい状況が続く宿泊業を支援するための宿泊費助成事業も行います。このように感染予防と経済対策の両方に取り組んでいかなければならないのが今回のコロナ禍なのです。



にかほ市長  
市川雄次